

「高信頼性鋼の山陽」のブランド力向上

「高信頼性鋼の山陽」を支える高い技術力を維持・拡大していくために、業務の改善や最新情報の紹介、技術・技能の伝承など多様な活動を展開しています。

TPM活動の推進

TPM(Total Productive Maintenance:全員参加の生産保全)は、1971年に日本プラントメンテナンス協会が提唱したもので、災害・不良・故障など設備を中心に潜在するロス・ムダをはじめ、研究開発・営業・管理などを含めた生産システム全体に潜在するあらゆる利益阻害要因を徹底的に排除して、生産効率(経営効率)を極限まで高め、製品の安定供給を実現・維持する活動です。当社では、生産部門を主体に、自主保全・個別改善・計画保全・MP設計・品質安全・安全衛生・教育訓練の7項目に重点を置いて、製造現場の作業単位を基本としたサークル単位で、TPM活動を推進しています。また、サークル単位でのTPM活動に対して定期的な成果発表の場を設け、優秀な活動事例については、社外発表大会に派遣しています。



技術講演会の開催

当社では、鉄鋼に関する最新の研究・開発動向などを幅広く全社的に紹介するため、内外の研究者や技術者を講師に招いた「技術講演会」を開催しています。2008年度では、米国の大学教授による「介在物制御と高纯净度鋼に関する研究」と題する講演会や、大学教授による「製鋼精錬プロセスと溶融スラグの粘度」と題する講演会など、「技術講演会」を合計6回開催しました。講演会では、毎回、多数の聴講者が参加し活発な質疑応答がなされ、大変有意義な講演会となっています。



技術・技能伝承活動の推進

団塊の世代の大量定年退職により、労働力不足や技術力の低下など、様々な面での影響が危惧されています。山陽グループにおいても、多くの従業員が定年退職を迎えつつあるなか、品質をより高めていく上で、高度熟練者が培ってきた技術・技能の伝承を推進していくことが大きな課題となっています。この課題に対応するため、「全社技術・技能伝承推進チーム」を中心にマニュアルを整備して伝承方法の統一を図るとともに、個々の技能の「見える化」により効率的な伝承を推進しています。

